

官能ぶちめきスペシャル
写真で見る 文字で読む

戦後史に残る

秋吉久美子
樋口可南子
古手川祐子 松坂慶子
麻生久美子 鈴木保奈美
かたせ梨乃

女優たちのSEX



史上最高のグラドル 染谷有香 決意のヘアヌード

極上の生尻ヌード 東雲うみ&野田すみれ

死後、スマホの中身を家族に見られる悲劇について



保存版
一日1分でこんなに変わる
あれ?
ひざ痛が治った

特別定価
530円
10 16
Weekly Gendai
2021 October

感涙
16歳で亡くなった
栄光学園・
天才作曲少年の
人生

グラビア
藤井聡太
という必然

ドキュメント・二人羽織政権

「おい岸田っ!」安倍法王の怒声

巻末大特集
そのとき、
あなたの覚悟と
知恵が試される
まさか100歳まで長生きしてしまうなんて
高齢で交通事故を起こしてしまった／還暦を過ぎて、離婚を切り出された
とてつもない難病にかかってしまった／突然家を失ってしまった
ほか全9章

人生は最後まで 「想定外」の連続だ

日本経済と
株価の
これから
1年後、3年後、5年後

世界のトップ15人が断言
ポール・クルーグマン ダロン・アセモグル
ジム・ロジャース 本田悦朗 原田泰 小林慶一郎

日経新聞「私の履歴書」 傑作回の楽しみ方



毎月分配型ファンドから
認知症保険まで上位30商品
高齢者向け
投信&保険
実名採点表

70歳オーバーの
プロ投資家7人が選んだ
総理が替わって私が買う
「爆騰」日本株
50銘柄

大調査 医療費から住宅まで 同い年金額を比較してもこんな差が...
カネ持ち老後 VS. ビンボー老後
みるみる貯金を減らしていく人の共通点／町医者通いが「資産寿命」を短くする理由
売って住み替え がすべての間違いだっ／なぜピンボー老後の人は 携帯代が高いのか
被害者多数 マッサージチェアはこんなに怖い
有名皇室記者が元婚約者A氏を直撃!



まさかが100歳まで 長生きして しまっつなんて

「私自身、こんなに長生きするとは思っていませんでした。気が付いたら100歳を超えていた。それが率直な思いです。それでも太平洋戦争のときには旧満州に出征し、現地で持病の肺浸潤に苦しめられた。あの頃の自分からすれば、令和の時を生きていることに不思議さを感じます」

こう語るのは、文化勲章受章者で画家の野見山曉治さんだ。

野見山さんは昨年12月に100歳を迎えてなお、東京・練馬と福岡の糸島にあるアトリエを行き来して絵を描き続けている。だが、長寿だから

その孤独に苛まれる瞬間があるという。

もとより、人生というのはままならない。最後の最後まで想定外の事態が続く、そのたびに「こんなはずではなかった」と狼狽え、心は揺れ動いてしまう。そんなとき、「本当の大人」はどう振る舞うべきか。

「100年も生きると、折に触れ古い友達や知人が亡くなったと耳にします。そのたびに櫛の歯が欠けていくような寂しさを感じるので。自分だけが取り残されてしまった気持ちです。

人間、年を取るにつれて、自分が人との繋がりに



100歳を超えて絵を描き続ける野見山曉治さん

の中で生かされているんだと痛感するもの。ところが長生きをすることで、『寄る辺』が無くなってしまふのです」

旧友や知人だけでは無い。野見山さんはこれまでの人生で2度、妻との死別を経験している。

35歳のときに一人目の妻・陽子さんを、そして80歳で二人目の妻である武富京子さんを喪った。

武富さんは福岡の高級クラブ「みつばち」を経営していた名物ママで、野見山さんの最愛のパートナーだった。そんな妻を、がんで亡くしたのだ。

「私は炊事などろくにやったことがなく、いつでも人任せ。妻がいるときは、彼女に頼り切っていた。いつも近くに感じて

いた妻に先立たれた喪失感、言葉にできません。妻は5歳下でした。男女の平均寿命を考えれば、私が先に逝ってもおかしくなかったのです」

そんな野見山さんも100歳を超え、身体の衰えを感じるようになった。近所を歩こうにも足が痛み、乗り降りしにくい。少し身体を動かしただけで、息が上がってしまう。

皮肉なものだが、人生が長くなればなるほど、自分の機能が低下していく現実を何度も突きつけられてしまふのだ。

今年2月に100歳になった大分県別府市在住・山口保さんも、その最中にある。

「私は自宅内でのスクワットなど、できる限りの体力維持に努めています。それでも、体力の衰えは避けられない。

特に3年前、妻が死んだからは体力が落ちた。それまでは病院に行っても45分かけて歩いて帰っ

てきたのに、それもしなくなりました。

心配なのが、自分が長生きしたこと、娘たちが家族に負担をかけることです。自分は大丈夫だと強がってはいても、不安になる瞬間はあります」

いまや100歳を超える高齢者は全国に約8万6000人いる。まさかこんなに長生きするなんて。そう思い、心のどこかで戸惑う人も多い。

そんなとき、野見山さんの言葉がヒントになる。「100歳を超えてから大事なのは、未来を深刻に考えないことです。

たとえば朝起きて、今日は何をするかくらいは決めてもいい。でも、あまり長期的な計画を立てても仕方ありません。そもそも、自分にどこまで時間が残されているかなんてわかりませんから。

私自身、これから長く生きようとは思っていない。ただ、その日その日を生きていくだけです」

まさか還暦を 過ぎて離婚を 切り出される なんて

想定外の長生きは幸せな半面、苦悩や葛藤も伴う。自分の運命を受け入れ泰然としていることが、大人の知恵なのだ。

60歳を過ぎ、残された時間も短くなってきた。長年連れ添った妻と最後を過ごす。そう思っている、ある日突然、「三行半」を突きつけられることがある。

都内に住む沼田良治さん（62歳、仮名）も半年前、妻・咲江さん（61歳、仮名）から離婚を切り出された。

「私と妻は社会人3年目で結婚し、40年以上も連れ添った夫婦でした。3

人の子どもにも恵まれ、幸せな家庭を築いてきたと思っていたのです。

ところが私の定年をきっかけに、妻から「もう、あなたとは一緒にいられない。離婚してください」と告げられた。青天の霹靂でした」

もともと良治さんは寡黙な性格で、普段から咲江さんとの会話は少なかった。定年後も、「飯、風呂、寝る」の三言だけで会話が終わってしまうことも多かった。それでも長年の暮らしで、心は通じて合っている。良治さんはそう思っていた。

だが――。

「ある日、妻が『話がある』と深刻な顔をして切り出してきたのです。居間で向き合った妻が出してきたのは、離婚届だった。『これ以上、すれ違いの生活は送りたくない。あなたは私を召し使いのように思っているでしょう。何をして、あ

りかとうの一言も言っただけで生かされているんだと痛感するもの。ところが長生きをすることで、『寄る辺』が無くなってしまふのです」

旧友や知人だけでは無い。野見山さんはこれまでの人生で2度、妻との死別を経験している。

35歳のときに一人目の妻・陽子さんを、そして80歳で二人目の妻である武富京子さんを喪った。

武富さんは福岡の高級クラブ「みつばち」を経営していた名物ママで、野見山さんの最愛のパートナーだった。そんな妻を、がんで亡くしたのだ。

「私は炊事などろくにやったことがなく、いつでも人任せ。妻がいるときは、彼女に頼り切っていた。いつも近くに感じて

いた妻に先立たれた喪失感、言葉にできません。妻は5歳下でした。男女の平均寿命を考えれば、私が先に逝ってもおかしくなかったのです」

そんな野見山さんも100歳を超え、身体の衰えを感じるようになった。近所を歩こうにも足が痛み、乗り降りしにくい。少し身体を動かしただけで、息が上がってしまう。

皮肉なものだが、人生が長くなればなるほど、自分の機能が低下していく現実を何度も突きつけられてしまふのだ。

今年2月に100歳になった大分県別府市在住・山口保さんも、その最中にある。

「私は自宅内でのスクワットなど、できる限りの体力維持に努めています。それでも、体力の衰えは避けられない。

特に3年前、妻が死んだからは体力が落ちた。それまでは病院に行っても45分かけて歩いて帰っ

まさか最後の最後で 失ってしまったなんて

「今まで一生懸命働いてきたのに、人生の最終盤になってどうしてこうなってしまったのか……」

こう嘆くのは、チワワ

と共に出演した「アイフル」のCMで一躍ブレイクを果たした、俳優の清水章吾さん（78歳）だ。

清水さん取材した場